



7/9~7/15 穂肥指導会を実施しました!

「佐渡米未来プロジェクト圃場(島内100箇所)」において、穂肥指導会を実施しました。

14日に、佐和田地区羽二生集落で穂肥が実施され、暑い中大勢の生産者が集まりました。プロジェクト圃場の実際の生育調査結果をもとに、JAの指導員から出穂期予想



や出穂期から逆算しての穂肥施用の時期について指導がありました。個別に稲の状態をみながら、JAの指導員が出穂期診断を行いました。生産者の方は「出穂期の確認が一番難しい、指導会で毎年来てくれて助かる。年毎に梅雨時期の天候が異なるから、生育診断をして穂肥の時期を決める判断が難しい。今年も指導会に出て良かった、勉強になりました。」と話されました。



指導会の最後に、圃場に掲示している看板に、生育調査結果や出穂期の診断結果などを記入し、指導会に出られなかった人があ



とで生育状況や出穂診断結果などの状況確認できるのです。今年もおいしい佐渡米になるように、努力しています。

コープにいがた子供ツアー 7月25日に、小学生を中心にスタッフを含む13名が参加しました。ツアーのテーマは「トキの餌場になる「ピオトープ」づくりに挑戦しましょう」でした。地元では、新穂湯上水辺の会をはじめ佐渡生物語り研究所の皆さんの協力もとで、ピオトープ作りを行い、子供たちの楽しい様子を伺いました。



参加した小学生は「普段は外で遊ぶ機会が少ないので、最初、入ったときは泥の感じが気持ち悪かったけど、だんだん慣れて楽しくなりました。みんなと一緒に作ったピオトープがトキの餌場になって、トキはもっともっと増えたら、嬉しい!」と話していました。



その後、生きもの調査も行われ、子供たちはいろんな種類の生きものを見つけて、喜んでいました。参加者のみなさんは充実した一日を過ごすことが出来ました。

7月21日現在、コシヒカリの生育は平年並みに進んでいます、出穂期は平年並みの予想です。2回目穂肥は後期栄養確保を考え、しっかりと確実に散布することが重要です。



稲作生育情報

株式会社JAファーム佐渡

JAファーム佐渡は農業の担い手育成を目標の一つとして、平成24年に設立されました。役員を含む4名の通年スタッフで、水田20ha、柿4ha、採種0.2ha、と加工柿などに取り組んでいます。



板垣 徹 社長

板垣社長71歳は「佐渡は高齢化が進み、離農する方も増えてきた。地域の担い手だけでは不足していることから、受託組織の必要性が検討され、JAファーム佐渡を立ち上げることになりました。農産物価格が下がる中、加工に取り組んだり、作業の工夫など多様な取り組みに挑戦しています。特に米づくりについては、環境保全に配慮すること「トキと暮らす郷」米に多くのほ

場で取り組んでいます。これからは生産調整の手法として、飼料用米にも取組む予定です。地域の方々からの期待も大きくてとてもやりがいがありますので、一緒に農業をやってくれる若者が来てほしいと思っています。」と話されました。

本間直樹さん(29歳)は佐渡出身で、農業大学卒業後佐渡に戻り、現在JAファーム佐渡で働いています。この日は、柿畑の草刈作業をされていました。「農業は大好きなので、ずっと続けていきたいと思っています。実家も農家ですが、規模が小さいので、JAファームで働くことに決めました。農産物の価格は心配ですが、農業で生活できるように勉強して、頑張りたいです。」と笑顔で話してくれました。



本間 直樹 さん



生育調査